

2022(令和4)年度 西部地区五大学共同開講授業科目「博多学」シラバス

授業科目名	博多学
開講年度	2022
開講学期	前期
対象学部等	全学部
対象学年	1～4
必修選択	選択
単位数	1 単位（現地見学＋ 集中講義）
担当教員	<p>【九州大学】宮本 一夫 人文科学研究院 歴史学部門 教授 木島 孝之 人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教</p> <p>【西南学院大学】川上 具美 人間科学部社会福祉学科 教授 尹 芝恵 (ユン ジへ) 国際文化学部 准教授</p> <p>【福岡大学】渡辺 亮一 工学部 社会デザイン工学科 教授</p> <p>【福岡歯科大学】永井 淳 地域連携センター 教授</p> <p>【中村学園大学】松隈 美紀 栄養科学部 フード・マネジメント学科 教授</p>
履修条件	履修希望者数によっては、人数制限を行う場合がある。
授業の目的 教育目標	<p>「博多学」を通じて、みなさんが今まさに学んでいる土地が、どのような場であるのかを学んでいきましょう。地域に関する知識（歴史、文化など）や、地域で行われていること（習慣など）を知ること、地域に対する誇りを再確認することにつなげ、更にその誇りをグローバルに生きる「国際人」の自信として欲しいと願っています。</p> <p>以上のようなことから、みなさんの学習目標は大きく二つを考えています。</p> <p>ひとつは「博多」の魅力を自身の言葉で伝えることができるようになること。もうひとつは、地域を見つめる際にさまざまな視点が存在することを知ることです。</p>
授業概要	博多を博多湾や水事情および災害などの「自然」、対外交流、文化普及等の「歴史」、食文化、外来文化等の「文化」の面から考察する。
授業の進め方	<p>現地見学（4/23(土)、5/7(土)、5/14(土)、5/28(土)のいずれか1日に必ず出席すること）</p> <p>集中講義（8/17(水)、8/18(木)、8/19(金)の3日間）</p>

【授業計画：現地見学】

4/23(土) 5/7(土) 5/14(土) 5/28(土)	<p><b>福博の歴史と文化探訪</b></p> <p>永井淳 福岡歯科大学 地域連携センター 教授</p> <p>テーマ</p> <p>神社・仏閣・記念館・遺跡などを現地見学し、歴史的・文化的背景を理解する。</p> <p>我々が現在生活しているこの福岡・博多の地域を実地見学します。座学ではなくて、地元に着した歴史・文化を「歩いて、見て、聞いて、触れる」ことを目的にします。現地見学体験を通じて、自分を取り巻く地域や社会の理解を深めることは、これからの学びに対する姿勢を変えたり、地域社会での貢献を考える材料になったりすると思います。一緒に学んでいきましょう。</p> <p>下記スケジュールから1回を選び、現地見学（土曜 10 時頃から約 6 時間）に参加してください。</p> <p>4 月 23 日「福博の歴史と文化を体験するイントロダクション」 ～中央区・城内、早良区・百道浜～ 鴻臚館跡遺跡展示館、福岡市博物館</p> <p>5 月 7 日「博多伝統行事・祭礼と食文化を体験する」 ～東区・箱崎、東区・社領～ 管崎宮、博多の食と文化の博物館「ハクハク」</p> <p>5 月 14 日「福博における外来文化の受容・洗練および伝承を体験する」 ～博多区・上川端、冷泉、早良区・西新～ 博多町家ふるさと館、西南大博物館、聖書植物園、元寇防塁跡</p> <p>5 月 28 日「福岡・博多の歴史と文化を体験する」 ～早良区・高取、早良区・百道浜～ 紅葉八幡宮、はかた伝統工芸館（福岡市博物館内）</p>
---	---

**【授業計画：集中講義】**

8/17(水)、8/18(木)、8/19(金)の3日間

**8月17日(水)**

<p>8/17(水) 10:40～12:10 (90分)</p>	<p><b>博多の郷土料理と食文化①</b> 松隈 美紀 中村学園大学 栄養科学部 フード・マネジメント学科 教授</p> <p>本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。</p> <p>&lt;博多の郷土料理と食文化&gt;① 郷土料理を生み出す要素 1. 気候・風土 2. 歴史 3. 宗教 4. 教育</p>
<p>8/17(水) 13:20～14:50 (90分)</p>	<p><b>大宰府と「日本」誕生の歴史</b> 川上 具美 西南学院大学 人間科学部社会福祉学科 教授</p> <p>いつから我が国は「日本」という名称を使うようになったのでしょうか。中学や高校において日本の歴史を学ぶなかで、この点は置き去りにされる傾向があります。皆さんは、「日本」という呼称のはじまりについて、どのように学んでこられたのでしょうか。本講義では、「日本」という名称を使うようになった時代について、大宰府の歴史をもとに、受講者の皆さんと一緒に考えて行きます。</p>
<p>8/17(水) 15:00～16:30 (90分)</p>	<p><b>博多の郷土料理と食文化②</b> 松隈 美紀 中村学園大学 栄養科学部 フード・マネジメント学科 教授</p> <p>本授業は、古くから東アジアに開かれた玄関口として発展を続け、多くの歴史遺産や豊かな郷土文化を今に受け継いできた博多（広い意味での福岡市）について学び、その地域周辺で食されている四季の郷土料理を通して、歴史や文化（食文化）、生活、年中行事、国際交流、産業を理解し、地元食材の知識や大切に使う心を養い、地域社会やグローバル社会において、自分の言葉で博多の歴史や食文化について、人に説明することができる事を目的とし、以下の講義を行う。</p> <p>&lt;博多の郷土料理と食文化&gt;② ・博多の正月料理 ・博多の四季（春・夏・秋・冬）の料理 ・博多の祭り料理 ・博多の朝食とおもてなし料理 ・昔ながらのおやつ ・郷土料理とは</p>

8月18日(木)

8/18 (木) 10 : 40 ~ 12 : 10 (90分)	<b>福岡藩と朝鮮通信使 - 江戸時代の国際交流</b> <u>尹 芝恵 (ユン ジへ) 西南学院大学 国際文化学部 准教授</u>  江戸時代の日本には、朝鮮から「朝鮮通信使」という外交使節団が定期的に訪れ、外交だけでなく文化交流も活発に行っていた。福岡藩は、相島（糟屋郡新宮町）で朝鮮通信使を接待している。この講義では、その接待の具体的な内容を取り上げ、当時の福岡（博多）での交流の実態を明らかにすることで、江戸時代の国際交流の意義と福岡藩の役割について考察したい。
8/18 (木) 13 : 20 ~ 14 : 50 (90分)	<b>①博多の水資源と水循環</b> <u>渡辺 亮一 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授</u>  1 限目の講義では、福岡市内の水資源について考察し、福岡市の弱点である飲み水に関して、どのようにして福岡市民が水を得ているかを見つめなおし、流域治水を達成することで、水資源と洪水の両方を一挙に解決する方策を講義の中で考えていく。
8/18 (木) 15 : 00 ~ 16 : 30 (90分)	<b>②博多湾の水質環境について、「豊かな博多湾の再生を目指して」</b> <u>渡辺 亮一 福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 教授</u>  2 限目の講義では、福岡市民が使った水が最終的に流れ込む博多湾に関して、現状の問題点とその解決策について解説を行い、豊かな博多湾の再生のために何が必要かをお話します。

8月19日(金)

<p>8/19(金) 10:40~12:10 (90分)</p>	<p><b>房州堀の構築にみる近世博多の再編と「双子都市 福博」の創出</b> 木島 孝之 九州大学人間環境学研究院 都市・建築学部門 助教</p> <p>博多町の南辺を限る「房州堀」は戦国期大友氏の構築とされているが、これは考古・文献資料の不十分な解釈による説である。実は、黒田氏入国時に博多町を福岡城の外曲輪の一つに再編・編入する際、織豊系城郭の縄張り技術を用いて構築(大改修)したのである。しかも、その背景には、既得権を堅持したい朝鮮出兵特需の“落とし子”ともいべき博多門閥豪商衆と、巨大資本を居城下に一元支配したい新封大名黒田氏のシビアな権力闘争があり、これが「双子都市 福博」創出の出発点ともなった。</p>
<p>8/19(金) 13:20~14:50 (90分)</p>	<p><b>遺跡からみた古代・中世の博多</b> 宮本 一夫 九州大学人文科学研究院 歴史学部門 教授</p> <p>古墳時代の那津官家、中世の博多津唐房や鎮西探題などを始めとする博多遺跡群から、博多が対外交流や対外交易の拠点として栄えてきた歴史を振り返ることができる。さらに、古代の博多と鴻臚館・大宰府、中世の博多と箱崎遺跡、あるいは元寇防塁遺跡と関係づけながら、古代~中世の博多の歴史的な位置づけを遺跡から考えてみたい。</p>
<p>8/19(金) 15:00~16:30 (90分)</p>	<p><b>グループディスカッション</b></p>
<p>成績評価の方法等</p>	<p>①各大学の担当教員は、評価を受けるにあたって必要な出席回数を満たしている学生について、実地見学および授業中に課した振り返りシート等を総合的に勘案し成績評価を行い、大学は単位を認定する。</p> <p>②グループディスカッションで提出されるレポート、また、後日提出される最終課題を加算材料とするかどうかについては、各大学の担当教員の判断に委ねる。</p>